

2018 年度 春季海外研修

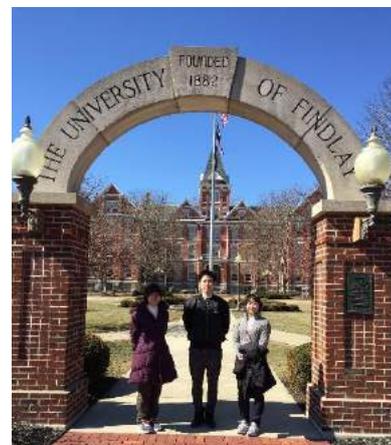
アメリカ・フィンドレー大学 ベーシック・アニマルハンドリングプログラム

獣医学類4年 林日菜子

今回、アメリカ・フィンドレー大学のベーシック・アニマルハンドリングプログラムに参加しました、獣医4年の林日菜子です。

このプログラムに参加しようと思った動機は、大学在学中に一度海外留学をしてみたいと思っていたこと、本プログラムでは牛・豚・馬などのいわゆる産業動物に実際に触れてその世話や獣医学的処置の実習を行えると聞き、とても興味を持ったことなどです。

自身の英語力もそこまで高いわけではなく、日本語の通じない土地でアメリカの人々と関わりながら3週間を過ごすことに初めは不安もありましたが、結論として、想像を遥かに超えて実りある研修となりました。



フィンドレー大学の正門にて
(本プログラム参加者3人)

月曜日から金曜日の実習では、朝6:30のバスで学外農場へ向かい、そこで馬学科の学生さんと一緒に馬の世話の手伝いをさせてもらいました。お昼に一度大学へ戻り、昼食を済ませた後、再びバスで農場へ向かい、馬への処置のデモを見せてもらったり、牛・山羊・豚の保定・去勢・除角・断尾・削蹄などを実際にやらせてもらったりしました。この実習内容がとても充実していて、日本ではなかなか経験できない実習だったと感じます。

15時に実習が終わり、その後は買い物に行ったり、交換留学生として5月に酪農学園大学に来ることが決まっている学生さん達と親睦を深めたり、ホースセラピーの施設や大規模農場や動物病院を見学したりと、持て余す時間というものが少ない盛りだくさんのスケジュールでした。

週末は動物園や水族館のバックヤード見学をしたり、フィンドレー大学の学生さんに日本食をふるまったり、学生さんの家にホームステイしたりしました。



大学内の建物・日本語プログラムハウスにて
日本食を通して フィンドレー大学の学生さんとの交流



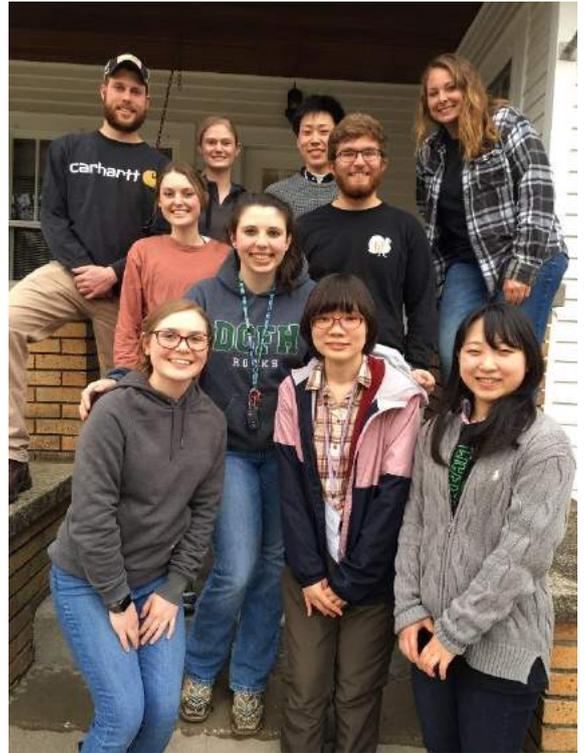
農場での実習
(本プログラム参加者3人)

本プログラムに関わってくださった方々は国籍を問わず皆さんとても親切で、より良い研修となるよう尽力して下さったり、英語が分からない時に気遣って下さったり、とても親身になってくださいました。3週間という長いようで短い時間がここまで充実感のあるものになったのは、ひとえにこの方々のお陰だと思っています。

また、参加者は3人とも、学年や学類は様々でしたが、本プログラムを通して団結し協力し合いながら3週間で過ごすことができました。



実習でお世話になったフィンドレー大学の学生さんと本プログラム参加者3人



実習の内容は、動物の保定や処置など実践的なものから、投薬や注射など専門的なものまで多岐に渡っており、薬品名など獣医学的知識は日本と共通な部分が多いため、酪農学園大学の講義で習った内容もお話の中に出てくることがあり、習ったことが実践の場で出てくることに感動すると同時に、既知であるはずの内容を細部まで思い出すことができず、自身の勉強不足を痛感する場面が多々ありました。その度にもっと勉強しなければならないと自分を戒める気持ちが生まれ、そういった面でもこのプログラムに参加して本当に良かったと感じます。

この3週間を通して、アメリカでの獣医師やペットに対する位置づけや認識の片鱗を垣間見ることができ、また、アメリカという国の国民性も感じることができました。加えて、大切なのは英語力ではなくコミュニケーション力や交流を図ろうとする姿勢であるということも身に染みて感じました。

今回お世話になったすべての方々にこの場をお借りして感謝を伝えたいと同時に、本プログラムを通して得た経験や人との関わりを大切に、今後の勉強や意識の持ち様に生かしていきたいと思えます。